

# 掲 示 板

## \* 研修実施報告 ④ \*

### ～研修情報見本市～

去る8月26日に、市町村における職員研修や自己啓発等に役立つ情報を発信することにより、組織の活性化を支援することを目的として「研修情報見本市」を実施しました。

研修専門機関7社がプレゼンテーションを行い、17市町村から21名の研修担当者の皆様に参加されました。

今回は、実際の研修の担当講師によるプレゼンテーションを行っていただいたので、参加者のアンケートからも、「実際の講師のお話を聞いてよかった」という意見が多くあり、各市町村における研修の企画・運営に役立てていただけるものとなったと感じています。

各研修専門機関からのプレゼンテーションのテーマと研修内容は、下記のとおりです。

#### ■『分権時代の法的思考能力養成』

社団法人 日本経営協会 田鹿 俊弘 氏

(研修目的)

はじめに「隣人訴訟」に関するグループワークをし、法律を広く学び、これからの自治体運営には欠かせない政策法務の基礎知識を学ぶ。



#### ■『折衝・交渉研修』

株式会社 話し方教育センター 熊田 鋼嗣 氏

(研修目的)

住民と接する場が増え、住民からの要望や価値観も多岐に亘っており、自治体職員としては、折衝・交渉能力において多面的な視点が求められてきているため、時代に即した折衝・交渉能力についてグループワークを取り入れながらそれらを身につける。



#### ■『簿記入門研修』

日本ビジネスドック株式会社 関口 康尚 氏

(研修目的)

簿記の流れ・仕訳をイメージ化して作業することで、誰でもわかりやすく1日で簿記会計の基本を習得する。



#### ■『～キャリアビジョンを明確にする～キャリア開発研修』

株式会社 大栄総合教育システム 万代 純三 氏

(研修目的)

今後、ますます職員一人ひとりの業務量が増え、責任・役割の遂行が高まる中、定年前の職員だけではなく、未来のある職員に対しても、仕事の展望・いきがいを見出すために、仕事のビジョンを明らかにしていく。



#### ■『市町村職員ワークショップコーディネーター入門研修』

学校法人 産業能率大学 富沢 日出夫 氏

(研修目的)

地方分権の推進とともに、住民と対話をしながら、一緒にまちづくりを行うことが求められている中、そのために必要不可欠となるワークショップの運営について、その技術（心・技・体）を習得する。



#### ■『ホスピタリティ・サービス・マネジメント研修』

株式会社 日本コンサルタントグループ 佐藤 栄一 氏

(研修目的)

日本全体の働く意欲がなくなっている中、CS（住民思考）で組織づくりを行い、ES（職員のやる気）の向上を図る。住民思考とやる気の相乗効果で組織が強くなることから、個人のスキルアップに重点を置かず、組織力、チーム力を高める。



#### ■『業務改善研修』

株式会社 アリエールマネジメントソリューションズ 矢代 隆嗣 氏

(研修目的)

業務改善のマインド手法を学ぶとともに、問題の洗い出しをするなど改善のプロセスを着実に踏まえながら、自分の現在の業務の改善策を作成する。



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567

# 掲 示 板

## \* 研修受講者レポート ④ \*

～「危機管理研修」に参加して～

泉佐野市生活産業部市民生活課 本道 篤志

現在の地方自治体は大きな自然災害だけではなく、様々な危機に遭遇する可能性があります。リスクマネジメントにより、きめ細かい予防策を講じていたとしても100%回避できるものではありません。一旦危機に陥ったときは、迅速で正確な対応が求められ、自治体職員の行動が市民生活に大きな影響を及ぼすばかりではなく、対応を間違えれば事態は悪化し、組織は壊滅的な打撃を受けることになります。

今回の研修では、危機に対応するため召集された市の精鋭？という設定で、グループワーク中心に事故発生後の対応について学びました。

研修のメインイベントは模擬記者会見で、ある事故が起こったという想定のもと、情報収集、関係機関への依頼、内部組織への指示など必要な対応をしながら、その日の午後に講師の先生や他の研修生が記者役になり、実際に記者会見をやってみるというものです。講師の先生がダミー機関になり、そこに指示や情報収集を依頼すると、結果や回答を返してくれるというシステムです。

今回の想定課題は「市の住民情報システムがダウンした。」というもので、まず、市役所の業務継続に奔走していると、次に「システムダウンは不正アクセスによるもので、個人情報流失した可能性がある。」という情報が入り、その対応をしていると、「インターネット掲示板に市民の個人情報が掲載される。」「不正アクセスは市の職員が関与している可能性が高い。」「窓口は大混乱し、抗議が殺到。」など事態はどんどん悪化していきます。そのなかで時間が決められた記者会見に臨むため、説明用資料（ポジションペーパー）を作成していきます。

研修であることはわかっている、事態が悪化するたびにその対応に戸惑い、あせりのなかで時間だけが刻々と過ぎていきます。模擬記者会見でも幸いにして？スポークスマンの役は当たりませんでした。記者役から容赦のない質問が次々に浴びせられました。

今回の研修で改めて感じたことは、危機に陥ったときこそ冷静に行動し、あせってその場しのぎのウソをつかないこと、よく言われる「危機は悲観的に準備し、楽観的に行動せよ」ということです。

最後になりましたが、講師の（株）インターリスク総研上席コンサルタントの緒方先生がダミー機関として山のような指示書に延々と回答されているのを見て感動しました。ありがとうございました。



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567